

在留邦人の皆様へ

平成23年3月22日
在インド大 医務官 佐藤芳郎

ツツガムシ病（ダニが媒介するチフス。別名、熱帯チフス）の局地流行のお知らせ

特にこれから避暑のためにインド北部に行かれる方へ注意喚起をしたいと思います。
インターナショナルSOSやインターネットからの情報によると、恙虫病(Scrub typhus)がヒマチャル・プラディシュ(Himachal Pradesh:HP)州マンディ(Mandi)地区に局地流行しています。ダニが媒介する病気で、人へは菌保有ダニ（有毒ダニ）の幼虫による刺咬傷の後に感染します。未治療のまま放置すると重症化し死亡することもあります。ただ、有毒ダニの割合は全体の1%前後ですので、全てのダニが病気を媒介するわけではありません。一方で、ワクチンがありませんのでダニに刺されないよう注意することが肝要です。

予防法：以下の方法でダニに刺されないようにすること。

(例) ダニの繁殖時期に汚染地域に入らない。

長袖、長ズボン、靴下などの着用により肌の露出を減らす。

草むらで裸足にならない。草の上で座ったり寝転んだりしない。

ダニの付着したと思われる衣類等をすぐに洗濯する等。

1. HP州の状況：マンディ地区のジョギンダルナガル(Jogindernagar)の村落に患者が多く集中しており、200人以上の患者が発生し、その内20%以上が病院で治療を受けていると地元のジテンダー医師(Dr.Jitender Kaul)がコメントしています。今のところ死亡者は確認されていません。
2. 恙虫病について
 - (1) 原因微生物等：ツツガムシ・リケッチアという微生物により引き起こされる急性発疹性熱性疾患で、ダニの一種であるツツガムシが媒介します。主な病原体保有動物として野生ネズミが挙げられます。
 - (2) 症状：発熱・発疹・刺し口（特徴的です）が主要3徴候で、90%の患者にみられます。潜伏期間は平均10日で、39度C以上の高熱とともに発症、数日目頃から体幹部を中心とした全身に紅斑・丘疹状の発疹が出現、他に筋肉痛、目の充血、倦怠感、頭痛、刺し口近くのリンパ節あるいは全身のリンパ節の腫脹があります。重症例ではDIC（播種性血管内凝固症候群）や多臓器不全で死亡することがあり、未治療の場合の死亡率は30%とする文献もあります。
 - (3) 治療：特定の抗生剤（テトラサイクリン等）が著効します。ペニシリン等のβラクタム系抗生物質は無効ですので注意して下さい。